

授業運営の振り返り（2025 年度）

授業担当者名(職名)	堀尾 正典(教授)	所属学科	教養（メディア造形）		
授業科目名	情報社会の基礎	授業方法	演習	履修者数	対面 73 名 遠隔 96 名

① 授業概要とその目的

この授業では、

- ・個人や企業、社会における様々な活動と情報についての現状
- ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの技術的仕組み
- ・これからの情報技術というように、今現在の情報活動の状況や課題、それを支える技術的な理解、これからの情報の動向などについて学ぶ。これにより日々進化する IT 社会の変化に対応できる知識を身につける。この学修を通じ、これからを賢く生き抜くため情報社会に対して自分なりのどう向き合っていけば良いのか、新しい知見や考え方（思考判断）を持てるようにする。

（「知識理解」◎、「思考判断」○）

② 担当授業の現状（昨年データと比較した全体の達成状況）

対面授業では今年の学生肯定評価率 62.7%（昨年 52%—昨年 46.2%）、オンデマンド形式のクラスでは 62.7%（昨年 45.9%—昨年 52.6%）であった。対面形式、オンデマンド形式ともに大きく伸びた。ただ、強い肯定評価率を見ると、対面クラスは今年 23.9%（昨年 24%）、オンデマンド形式クラスは今年 16.4%（昨年 18.8%）であり、昨年同様、強い成功実感を得る学生割合は、遠隔オンデマンド式の参加形態の場合対面に比較して 2/3 程度になってしまっている。

③ 授業結果への考察

肯定評価率の大きな向上は、なるべく平易で分かりやすく、学生にとっても親しみやすいテーマから話題を起すなど内容に工夫をこらしてきた結果と捉えてよいだろう。学生コメントでも授業の良い点として「話の分かりやすさ」を上げるものが多くみられた。強い肯定評価率からも分かるように、強く成功を実感した学生は圧倒的に対面が多い。やる気のある学生とそうでない学生が大きく分かれてしまう傾向は、オンデマンド形式の内在する根本的問題点のように考えられる。肯定評価率だけでなく、学生からのコメントの内容や量も圧倒的に対面が多く、2 倍以上の開きがあった。また「理解できなかった部分」として例年必ず意見が出される、計算問題（損益計算や在庫量、減価償却など）、コンピュータのハードウェア（CPU やネットワークセキュリティなど）、ソフトウェア（OS やアルゴリズムなど）の単位については、今年も同様の傾向があった。ただし昨年に比べて内容を精査し、情報量を落としたためか、例年よりも「理解できなかった」と言った否定的なコメントは減少したようである。

④ 次年度改善課題への方策

対面と遠隔の格差は非常に困難な問題である。学生にとって学びの方法を選択できることは大きなメリットとなるが、提供する教員がこれら二種類の運用形態について、達成度を均一にすることを保証することは極めて難しいと思われる。遠隔の利用学生には、そのメリットデメリット、やりきる難しさを事前に十分周知する必要がある。対面は昨年の改善から、学生との距離間を近くすることを心がけ、雑談のような話の中に、学生にとって本当に必要になると思われる話題を盛り込むなどの工夫の結果、学生の達成感を高めることができた。今後もこのような方向で授業を展開していきたい。

⑤ 学生へのメッセージ

現在の情報社会は日進月歩です。AI だ、SNS だと、日々新しい技術やそれに伴う問題・課題がニュースを賑わしています。このような社会で求められるのは、自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の手足で行動するという主体性ではないでしょうか。嘘やデマに流されずこれからの自分たちにとって必要なものを見抜き、どうすれば良いかを自ら考え行動できるようになるための一助として、この授業があれば幸いです。